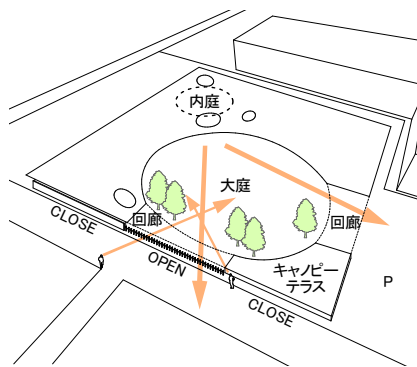


# 「走りまわる遊びまわる～自然と回廊のあるこども園」



岸和田市は未来に向けて女性の労働率の向上、待機児童の解消、施設の老朽化という課題に向けて対応を進めています。同時に「教育大綱」では様々な方針を打ち出し、子どもたちが自由な学びを得る土壌、学びの土台の形成に臨むと同時に大局的な視点で子どもたち、そして街の未来を守ろうとしています。

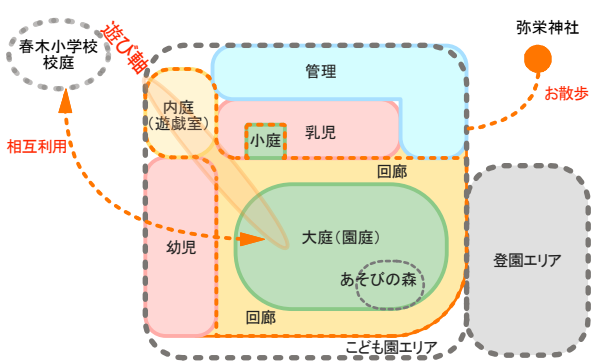
本こども園の設計では、自由な学びを許容するおらかな土壌と、その場で育つ子どもたちの日々を守るという、相反するふたつを共存させることを目標とします。現代社会では核家族化、女性の社会進出に伴う出産の高齢化を背景に育児の負担は大きくなっています。家庭生活の中で子どもに様々な体験をさせられる機会、自然に触れて体感する遊びの機会をつくることは、容易ではありません。本計画では子どもたちが自然溢れる園舎を自由に走りまわり、遊ばまれるこども園を提案します。園内には緑豊かな自然環境園舎とつながるあそびの森、築山や滑り台のあるキャノピーテラスを設けます。また回廊を取り入れた構成により室内と室外の境界を曖昧にし、自然の中での遊びを活動的なものにします。遊びの中で想像力と基礎体力を培い、五感をフルに活用して学び成長できる環境を提供することを目指します。



回廊は「こども園」を地域に対して閉じつつ開いた表情をつくります。少し閉じ気味なその全景は、守られていることの安心感を与え、緑豊かな自然は「地域」への癒しと開いた表情を与えます。

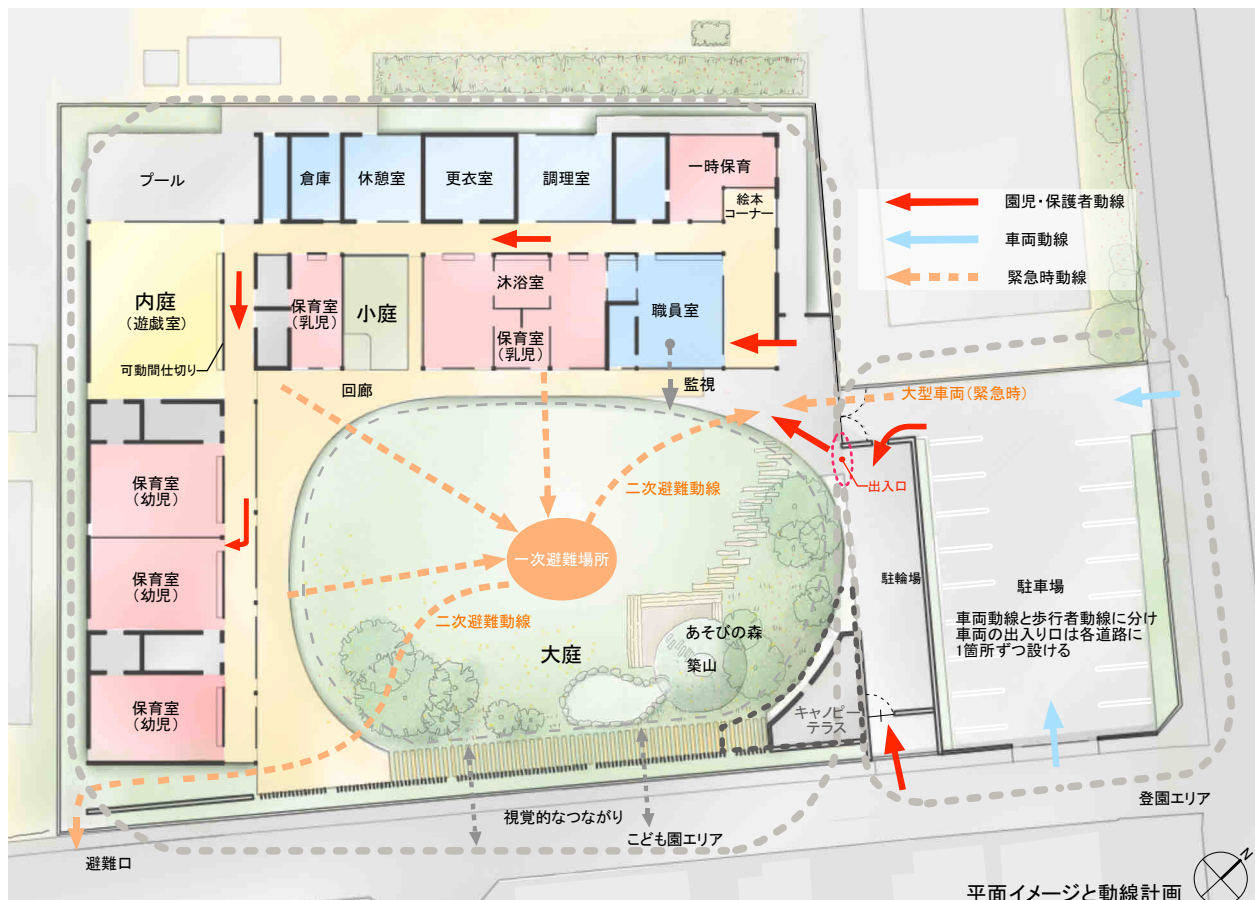
## ゾーニング

こども園としての機能のエリアと車両通行等のある登園エリアを敷地内で明確に分け、徹底した安全管理が行える計画とします。動線計画及び安全管理、建築コスト削減の観点から建物は一層とし敷地に対してL型に配置します。子どもたちの遊び場となる園庭と遊戯室を遊び軸とし、この軸を主軸に乳児エリアと幼児エリアを配置します。玄関に近い位置に乳児エリアを設けその付近に管理エリアを集中させることで、管理動線を簡略化かつ短縮し保育士の負担軽減を図り、園児たちに目が行き届く環境を作ります。職員室は園への出入りを全て把握でき、園庭を一望できる位置に配置します。一時保育室は入り口付近に設け長時間の利用に対応できる計画とします。園庭を巡る大屋根で覆われた回廊空間は、雨や強い日差しの日でも安全に遊ぶことができるスペースとして機能します。各保育室は園庭に面して設けられ、それぞれの部屋から回廊空間を介して園庭に出ることが出来ます。



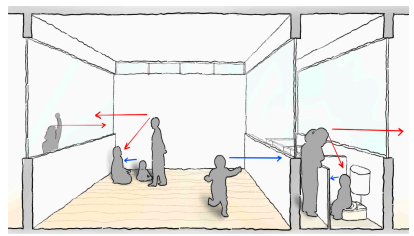
## 園内の3つの庭

大庭-園庭、小庭-乳児たちの庭、内庭-遊戯室、園内の3つの庭は回廊を介してつながります。大庭は子どもたちが自然に触れ、様々な体験ができる場として提案します。ツリーハウスを作ったり、シンボルツリーにハンモックをかけて遊んだり園内の遊び場だからこそできる「あそびの森」をつくります。高低差をつけて子どもたちの好奇心をくすぐり、仕上材に変化をつけて子どもたちの触覚を刺激します。小庭は、大庭と回廊で仕切られることで乳児たちが安全に遊ぶことができ、視覚的につながることで乳児たちの新しい遊びへの憧れを育みます。内庭は廊下の可動間仕切りをとり回廊を介してひと続きで利用できるようにし、さまざまなアクティビティに対応できるようにします。

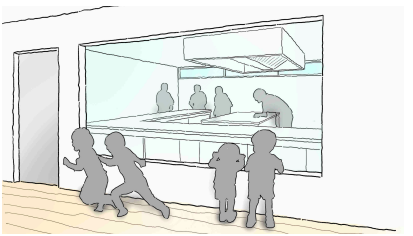


## 動線計画

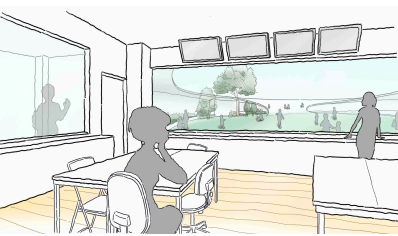
日常動線：車両動線と歩行者動線を明確に分け、登園エリアからこども園エリアへの出入口を一箇所にすることで運営管理をしやすくします。登園した園児と保護者は職員室前の玄関を通り、廊下または回廊から各保育室へ向かいます。避難時動線：園庭は一次避難場所となり、各保育室からすぐに避難が可能となる計画とします。二次避難動線を二方向確保することで、もしもの時に備えます。あらゆる事態に備え各保育室に二方向の避難経路を確保します。登園エリアには大型車両の通行経路を確保し、緊急時の大型車両通行に対応できるようにします。



各保育室は、子どもの安心感を得るため子どもの視線を遮る高さで空間を区画し大人の視線の高さでは保育室が見渡せる計画とします。



玄関から保育室までの動線内にガラス張りの調理室を設け、前を通る園児たちが中を目にし、匂いを感じることで食に対する興味関心を高められるようにします。



職員室は園庭と出入口を眺められる位置に配置します。園舎内と園庭に監視カメラを適切に設置し、職員室にモニターを設けて監視体制を整えます。



あそびの森がある「大庭」にはキャノピーテラスを計画します。キャノピーテラスへは築山をのぼり、滑り台で降りることができます。



「大庭」-「内庭-遊戯室」の遊び軸と「保育室」をひと続きにし、子どもたちのアクティビティを高め一体的利用を促します。深い軒下には開口を設け、光・植樹・砂場を取り入れます。

## 構造・コスト低減の提案

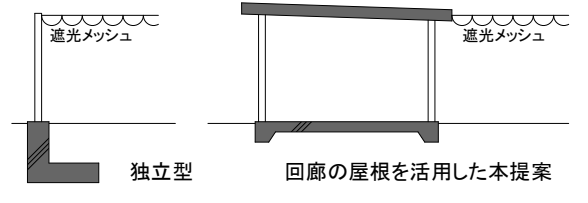
柱・梁は鉄骨造を採用しています。「口準耐-2」とすることで外壁は防火構造とし、外壁や間仕切りには木下地を使うことでイニシャルコストを抑えることと、施設の将来的な可変性を容易にしています。この設計方針はライフサイクルコストの観点からも有効であり、経済性にも配慮しています。設備更新、改修の容易さは数十年後の本建物の用途変更を含めたスムーズな改修計画を可能にします。



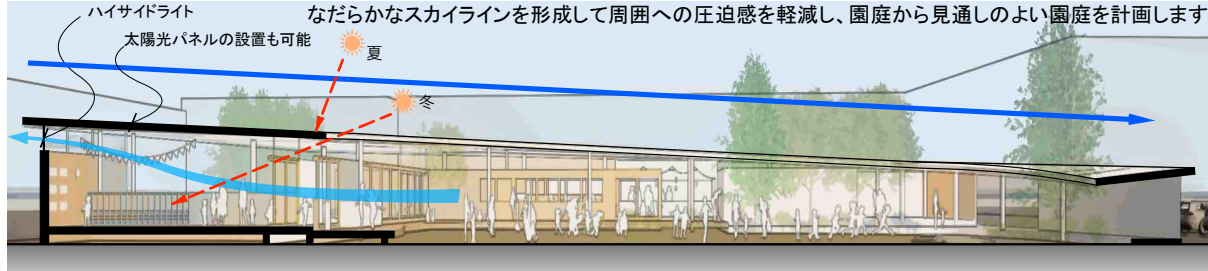
あそびの森には遊具が点在し、自然・緑と一体になった遊びまわる場所が広がります。園舎からも見通しの良い園庭を計画します。



保育室や遊戯室を始めとした園舎の内装は木質化を図ります。木の温かみ溢れる園舎を目指し、地産材の活用も検討します。



回廊は園庭にかける遮光メッシュを支える構造体にもなります。建物躯体を利用することで過大な構造を設ける必要がありません。



自然エネルギーの利用(ライフサイクルコスト削減) 断熱性能を確保し環境負荷を抑え、自然エネルギーを活用し冷暖房の運転期間・時間を短縮します。大屋根で夏の日差しを遮り冬の暖かな光を取り入れ、圧力差換気を利用します。